

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員皆で意見を出し合いその中で納得出来る物を理念としてつくりあげている。利用者が安心、納得出来るサービスの提供を大切に、地域の交流(慰問)等を大切にしている。		自分たちの理念をもっとほりさげて、職員のケアの統一性に利用している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で意識付けするために朝礼時音読し日常のサービス提供時も理念を念頭におき職員全員で意識する事を心掛けている。		利用者が日常生活において安心、納得されているかさりげなく声掛けや、訴え等を傾聴し、確認把握する。
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書、運営規定にも文章として表し、入所時家族にも、わかりやすく説明している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に買い物、ドライブに出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、声をかけてもらったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭りに作品を出展したり、保育園と地域の方の慰問等交流を図っている。	○	筍の季節になると近所の方よりお裾分けを頂くときがある。気軽に立ちよられる関係を続けたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域学生の職場体験学習等の受け入れも積極的に受け入れている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で実施している。このことで自分たちのケアの振り返り見直し、ケアの根拠等が理解できサービスの向上に役立っている。	○	評価結果を改善シートで見直しケアの内容の充実を行っている
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。参加メンバーからは率直な意見や要望を頂いている。		外部評価結果がでた時点で運営推進会議に課題等を報告し、意見等を伺っている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新、その他の手続きで市役所を訪問し現場の実情を積極的に伝えている。		ケースワーカーの方とも問題解決のため相談等行っている。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議において権利擁護に関する研修に参加した職員から勉強会を開いている。		制度内容を把握し必要な利用者には活用していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり業務の中で虐待にあたる行為はないか注意し、職員に虐待防止の意識づけを行っている。		車椅子から立ち上がり転倒の危険がある利用者は、職員が常時見守りを行い拘束しないケアを心掛けている。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり利用料、ケア内容等の説明を行い納得して契約して頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情、不満に対し傾聴し利用 者が納得できる方法を見つけ、日常業務に反映 させている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	面会時行事の写真や、グループホーム内での 生活、健康状態等の報告を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時書面にて苦情相談窓口等の説明を行っ ている。		苦情等直接聞いた場合は職員会議や申し送り 等で話し合っている。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員会議で職員からのアイデアや意見等を聞 き利用者のためになることを前向きに取り組 んでいる。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	職員の急病時日勤のフリーの職員で対応して いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動がある時は新しい職員と利用者が早 く信頼関係を築くために、異動前よりグルー プホームを訪問し馴染みの関係を作るよう にしている。		新しい職員は利用者には、早く名前を覚えて いただくため名札をつけている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用において差別、偏見等はまったくなく、本人の意欲、高齢者を思いやる気持ち等に重きをおいている。		誰もが安心して働ける職場環境を目指している。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会でDVD等を利用し職員全員で、人権教育の啓発を行っている。		高齢者に対する「尊厳」を職員一人一人が意識するよう努めている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、職員会議にて他の職員に伝達報告している。会議に出席できない職員にはいつでも回覧できるようにしている。		派遣職員にも職員会議に参加してもらい情報の共有を行っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	排泄ネットワーク、徘徊ネットワークに入り情報交換等を行い、サービスの向上に、つないでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員から十分話を聞き、日頃より不満等個々の訴えが表出しやすい関係づくりを心掛けている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や成果について言葉にして労いやる気、意欲をもって働けるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時本人より不安やニーズを時間をかけ十分傾聴できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の課題不安等、入所申込時や面会時話しやすい雰囲気を作るようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の利用者に対する思い、業者に求めているものを把握し、どのようなサービス提供ができるか話しあっている。		必要であれば併設の特養にてショートステイ、療養型病院等の紹介を行っている。
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者家族には必ず事前見学をしてもらい、自宅施設病院に訪問にし面接を行っている。利用者の状態把握により利用後の適切な対応と利用者が早くなじまれるような支援を行っている。		必要に応じて併設特養施設のショートステイを利用するなど本人が不安なく利用できるような工夫している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩との思いが職員全員が抱いており、物を大切にできる気持ち等日頃からいろいろと教えて頂いている。		梅干し作りやお赤飯等利用者の得意分野で力を発揮していただいている。
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時現状報告・相談を密に行い利用者家族の間で、何か問題が起これば一緒に考えていきましょうと声掛けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個別の面会簿を作成し疎遠な家族に対しては電話や手紙等で近況報告及び面会の声掛けを行い、心理面のつながりがもてるよう取り組んでいる。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出時、利用者が普通だった、馴染みの道を教えて頂き、お店に行ったり、神社の御輿等見学行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	お茶のお代わり等となりに座っている利用者が入れて下さったり、リハ、レク等参加していない利用者お互い声かけをして下さったり、自分の出来る事を進んで行動される雰囲気がある。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所内での暮らしの継続が損なわれないよう情報提供を行っている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者と信頼関係を確立し一人一人の思いや希望等把握に努めている。	○	センター方式を利用しその人らしい暮らしを支援していきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が自分らしく生活するために入所時あるいは面会時御家族や御本人からこれまでの生活歴、環境等の把握を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のD-1, 2を利用し利用者が有する力の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の現在の体調、日常生活動作（ADL）等家族や居室担当者話し合いのもと一番良い方法で介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院、骨折等の発症により介護計画の必要が出た場合本人、家族の意向を伺いながら再度計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を手帳に記録し、朝、夕の申し送り、職員会議等を利用し情報の共有を行って実践へ反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院されることにより馴染みの関係が薄くなる為生活リハビリが出来る時点で早期退院を促し、併設のデイサービスのリハビリ器具を利用し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	読書が好きな利用者は近くの図書館を利用し楽しんで頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	希望、必要に応じて、1回/月理美容サービス、1回/週歯科往診等の支援を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内、地域で行方不明が出た場合地域包括センターと協働し、徘徊者の捜索を行う見守りネットワークに入っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時本人、家族からかかりつけ医の希望を尋ねている。一人の利用者に対し、2回/月の協力医の往診をお願いしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員、利用者ともに協力医と馴染みの関係のため、家族も気軽に相談したり、病気の説明、助言を頂いている。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護支援専門員との兼務であるが看護師を職員として確保し、24時間連絡がとれる体制を取っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による心身のダメージを軽減するため、面会にいき話を聞くようにしている。また事業所内の看護内容を伝え支援できる状況であれば早期退院を促している。		



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けたマニュアルを作成し、家族も納得出来るよう協力医とも話し合い、職員会議等で情報の共有を八耀いる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常的なケア、急変、痛みの出現、入院体制等家族と話し合い、協力医とも検討を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護力、経済等により同施設内の特養へ移動される方がいるが、その際は担当者、看護師、相談員等に詳しく情報交換を行い環境の変化によるダメージを防いでいる。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳ある対応、自尊心に配慮した言葉使い、介護者と利用者の関係の見直し等を行っている。		接遇委員が中心となり日常ケアの見直しのためにアンケートや勉強会を行い介護に役立てたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が難しくなった場合、本人の残存能力に働きかけたり、顔の表情、態度、仕草、家族等相談し出来るだけ納得される様な支援方法を考えている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたい決まっているが、食事時間など本人の体調に合わせて支援している。		本人のペースにあわせレクリエーション、手作業等選んで頂いている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの床屋がある方は家族と相談し、希望に添う様協力頂いている。		入浴外出時の準備は職員と一緒にいき本人の意思を確認、支援している。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後かたづけ等自分で出来る事はお願いし、さりげなく見守り介助を行っている。		業者によるサービスを利用しているがお赤飯、お寿司の味付けは料理の得意な利用者にお願している。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を聞きながら、給食会議等で報告し出来るだけ希望に添うよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用者の排泄量を把握し適切なオムツを選びむれ、2次感染が起こらないよう注意し清潔の保持に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調、希望に合わせて午前、午後の配慮をしている。入浴拒否がある利用者に対し散歩お茶等気分転換を行い無理せず、しばらくしてもう一度声掛けを行い援助している。		下肢の浮腫が激しい方で毎日足浴を希望される方には、足浴、その後軟膏塗布を施行している。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の利用者には日中の活動内容夜勤帯の入眠状態、本人の訴え等申し送りを十分行い、情報の共有を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	法人敷地内を散歩（四季折々の花を見て回る）若い頃梅干し作りが特意的な利用者には、地域の方から梅を頂き、職員と一緒にしている。		花壇の水やり、手入れを職員と一緒にする事が日課のようにになっている。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は家族もと話し合い金額を決め所持していただいている。事業所での外出、買い物等参加していただき使っている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調、天候が良ければテラスにてお茶のみ、カラオケ、体操等出来るだけ居室、居間等から離れ過ごされる時間を短時間でも確保している。		併設の特養の仏様参りを楽しみに参られる利用者の方は職員と一緒に参っている。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	神社、仏閣への参拝を取り行っています。帰宅願望が強くなると家族に外出等お願いすることもあります。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により公衆電話への対応をおこなったり、利用者の健康状態、生活状況等連絡している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	居室面会室でゆっくりとお話ができるよう静かな環境を提供することを心がけています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権や身体拘束に関する事業所内勉強会を実施している。利用者の状態把握を行い身体拘束しない方法を話し合い、ケアに結びつけている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる精神的ダメージを考え鍵をかけないケアを行っている。		利用者が精神的に落ち着きが内場合や帰宅願望が強い時など申し送り方法を共有している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間見守りを密に行い、特に死角になりやすい場所は職員間で話し合い、注意し安全確認を行っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の現状を判断し本人家族とも話し合い危険物は(果物ナイフ等)事務所で保管し必要時職員と一緒に使用している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人のリスク状態を把握し、事故発生時職員間で話し合い、再発防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルがあり定期的に勉強会を行っている。夜勤帯の急変時看護師、家族に連絡するよう体制がとれている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主避難訓練や地域の消防署を招き定期的に避難訓練を行っている。		日常的に避難経路の確保に努め通路に物を置かないよう注意している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時現状報告を行い予想される怪我、事故について、納得される対応策を考えている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色、呼吸状態、意識レベルの低下等異変であれば看護師、協力医と連絡し対応している。		利用者の日頃のバイタル値、SPO2値等を把握し職員間で情報の共有を行っている。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はそれぞれの薬袋に入れ、変更ある時は回診ノートで記録し、職員がすぐに薬効を確認出来るようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	リハビリ体操時腹部マッサージ等皆で楽しみながら行っている。1日の水分量を記録し、便秘予防を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態にあわせ、歯ブラシ、歯間ブラシ、ガーゼ等の介助を行っている。		口腔内食物残渣物による誤嚥性肺炎等の感染に配慮している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎回記録している。嗜好品を聴き、献立に反映している。		2ヶ月に1度母体法人の管理栄養士、管理者職員等参加し食事内容について検討会を行っている。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員があり、流行時勉強会を行っている。地域の感染情報を職員に知らせ早期に対応している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常にこまめに手洗いをを行い、まな板、包丁ふきんは毎日除菌し、食材は1回で使いきるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が安心して靴の履き替えが出来るよう玄関に椅子を準備している。ブランター等を置きくつろいだ雰囲気作りに努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を心掛け、花や緑をおき手作り作品等で季節感を演出し落ち着いた環境作りを工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の親密度に配慮したソファの席を準備しマイペースで過ごされるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、花、利用者の希望される物を置き、少しでも馴染みの環境で過ごして頂けるよう配慮しています。		入所説明時出来るだけ自宅で使われていた物を持ってきて下さるようお願いしています。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ換え、空気清浄機の使用、乾湿湿度計を利用し快適な環境を提供出来るよう心掛けている。居室においては24時間換気システムになっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を出来る限り使ってリハビリ、手摺りを使用し立ち上がりの練習を職員と一緒にしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわからなくなる利用者に対し、本人が理解し易い物を居室ドアに配慮し、混乱の軽減を行っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季折々の草花鑑賞をしながらの法人敷地内散歩や、天気の良い日はテラスにてリハビリ体操、お茶のみ等みなさんでゆっくりと過ごされるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 今年の重点目標 1) 利用者の「尊厳」を重視し、利用者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことが出来るよう支援します。  
2) 職員の専門性向上のため学習会を行い、レベルアップを図ります。  
3) 地域に開かれたグループホームを目指し利用者の方が安心納得出来るサービスを提供します。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員皆で意見を出し合いその中で納得出来る物を理念としてつくりあげている。利用者が安心、納得出来るサービスの提供を大切に、地域の交流(慰問)等を大切にしている。		自分たちの理念をもっとほりさげて、職員のケアの統一性に利用している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で意識付けするために朝礼時音読し日常のサービス提供時も理念を念頭におき職員全員で意識する事を心掛けている。		利用者が日常生活において安心、納得されているかさりげなく声掛けや、訴え等を傾聴し、確認把握する。
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書、運営規定にも文章として表し、入所時家族にも、わかりやすく説明している。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に買い物、ドライブに出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、声をかけてもらったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭りに作品を出展したり、保育園と地域の方の慰問等交流を図っている。	○	筍の季節になると近所の方よりお裾分けを頂くときがある。気軽に立ちよられる関係を続けたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域学生の職場体験学習等の受け入れも積極的に受け入れている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で実施している。このことで自分たちのケアの振り返り見直し、ケアの根拠等が理解できサービスの向上に役立っている。	○	評価結果を改善シートで見直しケアの内容の充実を行っている
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。参加メンバーからは率直な意見や要望を頂いている。		外部評価結果がでた時点で運営推進会議に課題等を報告し、意見等を伺っている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新、その他の手続きで市役所を訪問し現場の実情を積極的に伝えている。		ケースワーカーの方とも問題解決のため相談等行っている。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議において権利擁護に関する研修に参加した職員から勉強会を開いている。		制度内容を把握し必要な利用者には活用していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会があり業務の中で虐待にあたる行為はないか注意し、職員に虐待防止の意識づけを行っている。		車椅子から立ち上がり転倒の危険がある利用者は、職員が常時見守りを行い拘束しないケアを心掛けている。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり利用料、ケア内容等の説明を行い納得して契約して頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情、不満に対し傾聴し利用 者が納得できる方法を見つけ、日常業務に反映 させている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	面会時行事の写真や、グループホーム内での 生活、健康状態等の報告を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時書面にて苦情相談窓口等の説明を行っ ている。		苦情等直接聞いた場合は職員会議や申し送り 等で話し合っている。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員会議で職員からのアイデアや意見等を聞 き利用者のためになることを前向きに取り組 んでいる。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	職員の急病時日勤のフリーの職員で対応して いる。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動がある時は新しい職員と利用者が早 く信頼関係を築くために、異動前よりグルー プホームを訪問し馴染みの関係を作るよう にしている。		新しい職員は利用者には、早く名前を覚えて いただくため名札をつけている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用において差別、偏見等はまったくなく、本人の意欲、高齢者を思いやる気持ち等に重きをおいている。		誰もが安心して働ける職場環境を目指している。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会でDVD等を利用し職員全員で、人権教育の啓発を行っている。		高齢者に対する「尊厳」を職員一人一人が意識するよう努めている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、職員会議にて他の職員に伝達報告している。会議に出席できない職員にはいつでも回覧できるようにしている。		派遣職員にも職員会議に参加してもらい情報の共有を行っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	排泄ネットワーク、徘徊ネットワークに入り情報交換等を行い、サービスの向上に、つないでいる。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員から十分話を聞き、日頃より不満等個々の訴えが表出しやすい関係づくりを心掛けている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力や成果について言葉にして労いやる気、意欲をもって働けるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時本人より不安やニーズを時間をかけ十分傾聴できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の課題不安等、入所申込時や面会時話しやすい雰囲気を作るようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の利用者に対する思い、業者に求めているものを把握し、どのようなサービス提供ができるか話しあっている。		必要であれば併設の特養にてショートステイ、療養型病院等の紹介を行っている。
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者家族には必ず事前見学をしてもらい、自宅施設病院に訪問にし面接を行っている。利用者の状態把握により利用後の適切な対応と利用者が早くなじまれるような支援を行っている。		必要に応じて併設特養施設のショートステイを利用するなど本人が不安なく利用できるような工夫している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩との思いが職員全員が抱いており、物を大切にできる気持ち等日頃からいろいろと教えて頂いている。		梅干し作りやお赤飯等利用者の得意分野で力を発揮していただいている。
30	—	○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時現状報告・相談を密に行い利用者家族の間で、何か問題が起これば一緒に考えていきましょうと声掛けを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個別の面会簿を作成し疎遠な家族に対しては電話や手紙等で近況報告及び面会の声掛けを行い、心理面のつながりがもてるよう取り組んでいる。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出時、利用者が普通だった、馴染みの道を教えて頂き、お店に行ったり、神社の御輿等見学行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	お茶のお代わり等となりに座っている利用者が入れて下さったり、リハ、レク等参加していない利用者お互い声かけをして下さったり、自分の出来る事を進んで行動される雰囲気がある。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所内での暮らしの継続が損なわれないよう情報提供を行っている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者と信頼関係を確立し一人一人の思いや希望等把握に努めている。	○	センター方式を利用しその人らしい暮らしを支援していきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が自分らしく生活するために入所時あるいは面会時御家族や御本人からこれまでの生活歴、環境等の把握を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のD-1, 2を利用し利用者が有する力の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の現在の体調、日常生活動作（ADL）等家族や居室担当者話し合いのもと一番良い方法で介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院、骨折等の発症により介護計画の必要が出た場合本人、家族の意向を伺いながら再度計画の見直しを行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を手帳に記録し、朝、夕の申し送り、職員会議等を利用し情報の共有を行って実践へ反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院されることにより馴染みの関係が薄くなる為生活リハビリが出来る時点で早期退院を促し、併設のデイサービスのリハビリ器具を利用し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	読書が好きな利用者は近くの図書館を利用し楽しんで頂いている。		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	希望、必要に応じて、1回/月理美容サービス、1回/週歯科往診等の支援を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内、地域で行方不明が出た場合地域包括センターと協働し、徘徊者の捜索を行う見守りネットワークに入っている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時本人、家族からかかりつけ医の希望を尋ねている。一人の利用者に対し、2回/月の協力医の往診をお願いしている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員、利用者ともに協力医と馴染みの関係のため、家族も気軽に相談したり、病気の説明、助言を頂いている。		
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護支援専門員との兼務であるが看護師を職員として確保し、24時間連絡がとれる体制を取っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による心身のダメージを軽減するため、面会にいき話を聞くようにしている。また事業所内の看護内容を伝え支援できる状況であれば早期退院を促している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けたマニュアルを作成し、家族も納得出来るよう協力医とも話し合い、職員会議等で情報の共有を八糧いる。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常的なケア、急変、痛みの出現、入院体制等家族と話し合い、協力医とも検討を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護力、経済等により同施設内の特養へ移動される方がいるが、その際は担当者、看護師、相談員等に詳しく情報交換を行い環境の変化によるダメージを防いでいる。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳ある対応、自尊心に配慮した言葉使い、介護者と利用者の関係の見直し等を行っている。		接遇委員が中心となり日常ケアの見直しのためにアンケートや勉強会を行い介護に役立てたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が難しくなった場合、本人の残存能力に働きかけたり、顔の表情、態度、仕草、家族等相談し出来るだけ納得される様な支援方法を考えている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたい決まっているが、食事時間など本人の体調に合わせて支援している。		本人のペースにあわせレクリエーション、手作業等選んで頂いている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの床屋がある方は家族と相談し、希望に添う様協力頂いている。		入浴外出時の準備は職員と一緒にいき本人の意思を確認、支援している。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後かたづけ等自分で出来る事はお願いし、さりげなく見守り介助を行っている。		業者によるサービスを利用しているがお赤飯、お寿司の味付けは料理の得意な利用者をお願いしている。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を聞きながら、給食会議等で報告し出来るだけ希望に添うよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用者の排泄量を把握し適切なオムツを選びむれ、2次感染が起こらないよう注意し清潔の保持に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調、希望に合わせて午前、午後の配慮をしている。入浴拒否がある利用者に対し散歩お茶等気分転換を行い無理せず、しばらくしてもう一度声掛けを行い援助している。		下肢の浮腫が激しい方で毎日足浴を希望される方には、足浴、その後軟膏塗布を施行している。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の利用者には日中の活動内容夜勤帯の入眠状態、本人の訴え等申し送りを十分行い、情報の共有を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	法人敷地内を散歩(四季折々の花を見て回る)若い頃梅干し作りが特意的な利用者には、地域の方から梅を頂き、職員と一緒にしている。		花壇の水やり、手入れを職員と一緒にする事が日課のようにになっている。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は家族もと話し合い金額を決め所持していただいている。事業所での外出、買い物等参加していただき使っている。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調、天候が良ければテラスにてお茶のみ、カラオケ、体操等出来るだけ居室、居間等から離れ過ごされる時間を短時間でも確保している。		併設の特養の仏様参りを楽しみに参られる利用者の方は職員と一緒に参っている。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	神社、仏閣への参拝を取り行っています。帰宅願望が強くなると家族に外出等お願いすることもあります。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により公衆電話への対応をおこなったり、利用者の健康状態、生活状況等連絡している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	居室面会室でゆっくりとお話ができるよう静かな環境を提供することを心がけています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権や身体拘束に関する事業所内勉強会を実施している。利用者の状態把握を行い身体拘束しない方法を話し合い、ケアに結びつけている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる精神的ダメージを考え鍵をかけないケアを行っている。		利用者が精神的に落ち着きが内場合や帰宅願望が強い時など申し送り方法を共有している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間見守りを密に行い、特に死角になりやすい場所は職員間で話し合い、注意し安全確認を行っている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の現状を判断し本人家族とも話し合い危険物は(果物ナイフ等)事務所で保管し必要時職員と一緒に使用している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人のリスク状態を把握し、事故発生時職員間で話し合い、再発防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルがあり定期的に勉強会を行っている。夜勤帯の急変時看護師、家族に連絡するよう体制がとれている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主避難訓練や地域の消防署を招き定期的に避難訓練を行っている。		日常的に避難経路の確保に努め通路に物を置かないよう注意している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時現状報告を行い予想される怪我、事故について、納得される対応策を考えている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色、呼吸状態、意識レベルの低下等異変であれば看護師、協力医と連絡し対応している。		利用者の日頃のバイタル値、SPO2値等を把握し職員間で情報の共有を行っている。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はそれぞれの薬袋に入れ、変更ある時は回診ノートで記録し、職員がすぐに薬効を確認出来るようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	リハビリ体操時腹部マッサージ等皆で楽しみながら行っている。1日の水分量を記録し、便秘予防を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態にあわせ、歯ブラシ、歯間ブラシ、ガーゼ等の介助を行っている。		口腔内食物残渣物による誤嚥性肺炎等の感染に配慮している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎回記録している。嗜好品を聴き、献立に反映している。		2ヶ月に1度母体法人の管理栄養士、管理者職員等参加し食事内容について検討会を行っている。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員があり、流行時勉強会を行っている。地域の感染情報を職員に知らせ早期に対応している。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常にこまめに手洗いをを行い、まな板、包丁ふきんは毎日除菌し、食材は1回で使いきるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が安心して靴の履き替えが出来るよう玄関に椅子を準備している。ブランター等を置きくつろいだ雰囲気作りに努めている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を心掛け、花や緑をおき手作り作品等で季節感を演出し落ち着いた環境作りを工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の親密度に配慮したソファの席を準備しマイペースで過ごされるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、花、利用者の希望される物を置き、少しでも馴染みの環境で過ごして頂けるよう配慮しています。		入所説明時出来るだけ自宅で使われていた物を持ってきて下さるようお願いしています。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ換え、空気清浄機の使用、乾湿湿度計を利用し快適な環境を提供出来るよう心掛けている。居室においては24時間換気システムになっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を出来る限り使ってリハビリ、手摺りを使用し立ち上がりの練習を職員と一緒にしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわからなくなる利用者に対し、本人が理解し易い物を居室ドアに配慮し、混乱の軽減を行っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季折々の草花鑑賞をしながらの法人敷地内散歩や、天気の良い日はテラスにてリハビリ体操、お茶のみ等みなさんでゆっくりと過ごされるようにしている。		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 今年の重点目標 1) 利用者の「尊厳」を重視し、利用者が住み慣れた地域で生き生きと過ごすことが出来るよう支援します。  
2) 職員の専門性向上のため学習会を行い、レベルアップを図ります。  
3) 地域に開かれたグループホームを目指し利用者の方が安心納得出来るサービスを提供します。